

70歳～74歳の方の医療費の窓口負担について

医療連携・患者支援センター 山下 祐理子

平成26年度から70歳～74歳の前期高齢者の方の窓口負担が1割から2割に上がりました。70歳～74歳の自己負担は、75歳以上を対象にした「後期高齢者医療制度」の平成20年4月の創設に合わせ2割に引き上げられるはずでしたが、特例措置によりこれまでは1割に凍結されている状況でした。しかし、この特例措置により70歳～74歳の負担が前後の世代に比べ低くなるという状況が指摘されており、社会保障審議会にて議論がなされてきました。現行法上2割負担と法定されている中で、毎年度約2000億円の予算措置を講ずることにより1割に凍結する状況が続きましたが、個々人の負担が増加しないよう配慮するとともに、現役世代の保険料負担の増加にも配慮して、70歳に到達する方から2割に引き上げることが決定しました。ただし、平成26年4月2日以降に70歳の誕生日を迎える方から順次2割負担となり（誕生月の翌月の診療より）すでに70歳になっている方の負担は1割のまま据え置かれています。また、一定の所得がある方はこれまで通り3割負担となりますのでご注意ください。

こうした70～74歳の方の窓口負担の見直しについては、世代間で不公平が生じている状況を踏まえ、法律上2割負担とされていることを尊重する観点からも、速やかに法定割合に戻すことが適当である、と高齢者医療制度改革会議の中でも議論されてきましたが、見直しの開始時期について検討がなされていました。これまでの特例措置は廃止されていく見通しとなっており、全ての70歳～74歳が2割負担となるのは5年後のことになります。これに伴い、高額療養費の自己負担の上限額の見直しについても議論がなされている最中です。

ご不明な点やお知りになりたいこと等ございましたら、当院の医療連携・患者支援センターにご相談ください。



外来受診のご案内

- 開扉時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30～11:00 再診 8:30～11:30
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日、祝祭日、第3土曜／創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日～1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
- 予約変更専用 043-462-0489 (平日14時～16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ずご持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

お見舞いについて

【面会時間】
平日 15:00～19:00
土・日・祝日 11:00～19:00
(2階西病棟 13:00～19:00)
防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。
時間内での面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。
状況に応じ時間外面会許可証を発行いたします。

編集後記

この編集後記を書いている5月末の時点で、北海道を中心に、すでに真夏日を観測しているなど、記録的な暑さが報道されています。昨年の猛暑と比べ、今年はエルニーニョの影響で冷夏との予測もありますが、それでも、暑い夏になりそうです。私自身、すでに夏バテ気味?ですが、今から栄養と睡眠を十分にとり、今年の夏も仕事にレジャーに楽しみたいと思っています。(寺山)

編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)
発行月：2014年7月【年4回(1・4・7・10月)発行】
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



SAKURAdayori

東邦大学医療センター 佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

過労とストレス、 そしてストレス反応

副院長 黒木 宣夫



「疲れた」という疲労が、その日のうちに解消できない疲労を「疲労の蓄積」といい、疲労の程度が大きく健康障害を発生する可能性が高まった状態を「過労」と言います。

ストレス反応とは、いろいろな出来事や状況に対する身体と心の反応で、人間が生活していく上では避けることはできません。本来ストレスは危険な状況に対する警告の意味があり、生体は危険に対処しようとして反射的に交感神経が作動して血圧や脈拍を増したり、筋肉を緊張させて身構える体制になり、ストレスという外的負荷に対しての侵襲をやわらげようとします。このような緊張状態が持続するとストレスから心や身体の病気が引き起こされることがありますが、セリエが「ストレスは人生のスパイスである」と述べているように、適度なストレスは、むしろ日常生活の活力になり、個人を生き生きとさせる側面を持っていることも事実です。

ストレスには病気や長時間労働などの身体的負荷、心配事などの精神的負荷など様々なものがあり、ストレスが全て悪玉ストレスと言われる悪いストレスばかりではなく、入学、出産、結婚など善玉ストレスと言われるようなおめでたい出来事でストレスがかからないと一般的に思えることでも、本人にとっては大きなストレスとなったり、時には周囲も本人もその時点では「ストレスに気づかない」ということもあるのです。「人のこころの動き」は繊細で微妙な側面があり、特に今までの生活環境から大きな変化を伴う場合はストレス状態に陥り

やすいと言われています。したがってストレスは悪い面ばかり持つのではなく、無理な生活に対する警告としての意味や、ストレスを乗り越えようとすることで自己の成長を促す良い側面もあります。

- 一般にストレス反応として、
- 1) 不安、焦燥、抑うつなどが生じる心理的反応、
 - 2) 食生活の変化、アルコール依存などのためにその結果として遅刻、欠勤、作業能率の低下などの行動的反応、
 - 3) ストレス性の胃潰瘍など身体的反応の3つがあります。

そして、全ての人がある同じストレスに晒されている状況であったとしても、ストレスの強さを計ることは困難であり、客観的にストレス強度を数値で測定するのは難しいのです。ストレスの内容、種類によってストレス状態に陥りやすい場合もあり、その人のストレスに対しての受け止め方や、対処の方法、あるいはその耐性によってストレス状態に陥りやすい人とそうでない人がいることも事実であり、この同じストレス負荷がかかったら、すべての人がストレス状態に陥るということではなく、ストレスを受けとめる側の何らかの問題があってストレス状態に陥ることもありうるのです。その人の性格、物の考え方、人生観、対人関係のあり様、あるいはその人が成長してきた過程で獲得されてきたストレスに対する対処方法なども関係しているのです。

市民公開講座を終えて

泌尿器科 神谷 直人



鈴木啓悦教授

平成26年6月14日に当科で市民公開講座を担当させていただきました。当日は、梅雨の合間の五月晴れと天候にも恵まれ、100名を超える市民の方々にご参加いただくことが出来ました。我が国では高齢化社会を迎え、男性特有の疾患である前立腺疾患が急増しております。また、PSA検診が導入された自治体もあり、前立腺疾患で当科を受診される患者さんも増加し続けている状況です。6月15日は父の日でもあり、テーマを「お父さんの健康を考えよう!前立腺の病気を知ろう-前立腺肥大症・前立腺癌」として講演させていただきました。初めに当科の診療科責任者である鈴木啓悦教授より「前立腺の基礎知識」として、前立腺の解剖・統計と前立腺癌の予防ならびにPSAについて講演がありました。次いで矢野仁助教より「前立腺肥大症の診断・治療」として、前立腺肥大症の症状・検査法・治療法について詳細な説明がありました。小生からは、「前立腺がんの診断・治療」として前立腺がんに対する検査法や各種治療法や治療に伴う有害事象等について説明させていただきました。

2時間という限られた時間の中でご参加いただいた皆様にはわかりやすい内容となるように心掛けて準備を進めて参りましたが、前立腺疾患に対する治療法は日々進化しており、それに伴い説明内容も多くなり、ご理解いただけたかどうか

か些か心配でありました。しかしながら、ご参加いただいた皆様から数多くのご質問をいただくことが出来て安心致しました。今回の講演を踏まえ、ご心配がおありの方々は、是非泌尿器科外来を受診していただければと思います。講演の際にもお話をさせていただきましたが、当科では個々の患者さんに合わせた個別化された医療を提供出来るように心掛けております。

今後も市民の皆様へ泌尿器疾患に対する啓蒙活動を続けることで皆様の健康促進にお役に立てれば幸いです。ご参加いただいた市民の皆様ならびに市民公開講座開催にあたり、ご尽力いただいた皆様にこの場を借りて心より感謝申し上げます。有り難う御座いました。



左から鈴木教授、矢野助教、神谷講師



2014年 市民公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
7月26日(土)	地域で考えるケアと治療 「頭痛は怖くない2」	神経内科・脳神経外科・小児科 薬剤部
9月27日(土)	「がん撲滅キャンペーン」 ～最新のがん治療～	外科・他
10月25日(土)	「最新の放射線治療」	放射線科・他
11月29日(土)	地域で考えるケアと治療 「ものわすれ」(認知症)と共に歩む	神経内科・メンタルヘルスクリニック・ 脳神経外科・薬剤部・看護部・ リハビリテーション部・看護部・ 臨床心理士・ソーシャルワーカー
12月13日(土)	「冬の感染症対策」	感染対策室・他

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

一次救命処置 BLS・AED ～当院における教職員訓練～

院長補佐(教育担当) 蛭田 啓之 循環器内科 美甘 周史

「一次救命処置」(Basic Life Support: BLS)には胸骨圧迫(心臓マッサージ)と人工呼吸による心肺蘇生と、自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator: AED)による処置が含まれており、早急な対応が蘇生・社会復帰にきわめて重要です。誰でも行えますが、医療従事者として院内外のどこでも確実・安全に行えるよう、訓練とスキルの維持が必要です。

当院では教育委員会にワーキンググループを設け、病院教職員全員を対象に定期的に日本救急医学会の認定のBLS/AED講習会および上級の「チームで行なう高度な救急蘇生法」(Immediate Cardiac Life Support: ICLS)講習会を開催しています。また、職員数の多い看護師については、並行して看護部主催の講習を行い、毎年の新入職員に対しては、新人オリエンテーションプログラムに講習を組み込むなど、一次救命処置について多くの受講機会を設けています。昨年11月にJR船橋駅近くで救命活動を行って、船橋市中央消防署より表彰を受けた看護師もICLS講習会受講生の一人です。

講習会にはスキルの維持と向上のため、医師・看護師のみならず多職種の既受講者がインストラクター・アシスタントとして参加するほか、勉強会を毎月行って、相互の理解を深め、チーム医療の一助としているのが、当院の特徴です。一方向的な講習・指導ではなく、いわゆる「屋根瓦方式」的な相互教

育システムで、いろいろな立場・職種が同じ土俵で勉強し、お互いの役割をシミュレーション・経験することで、チーム力が醸成されますし、単なる受身的な学習より習熟度が深まります。さらに、継続性をもって参加者が少しずつ創意工夫することによって、内容・システムの充実を図っています。

佐倉病院では患者さんに安全・安心な医療、病院環境を提供できるよう、教育においても職種を越えた協力体制を創り、チーム医療の質向上を心がけています。



ICLS講習会の様子: 多職種協力して行っています

看護部:認定看護師紹介

がん化学療法看護認定看護師 根本 真紀子

がん化学療法看護認定看護師の役割は、患者さんやご家族が安心して抗がん剤治療が続けられるように、安全な環境を整え、治療で生じる副作用や苦痛を最小限に抑えるように援助をすることです。

私のがん化学療法看護認定看護師を目指したきっかけは、治療の副作用や病気による症状と向き合いながら、一生懸命に生きる患者さんたちとの出会いでした。抗がん剤の副作用の辛さに耐えながらも、社会や家庭での役割を果たそうと努力をしている方や、治療を続けることを悩む方など、様々な問題を抱えていることを知りました。そのような患者さんやご家族の力になりたい、そのためにはもっと専門的な知識や技術が必要であると思い、がん化学療法看護認定看護師の資格を取得しました。

現在の主な活動内容は、外来通院中の患者さんを対象に外来化学療法室で抗がん剤治療の看護ケアの実践、入院、外来を問わず、抗がん剤治療を受けている患者さんやご家

族の方との面談の実施、看護師からのコンサルテーション業務等も行い、院内の看護師の抗がん剤治療に対する知識、技術の向上を目指しています。

がん医療の進歩に伴い、最近では、副作用を和らげるための治療法も発達してきました。また、抗がん剤の治療の場合は、入院から外来へとシフトされてきています。患者さんが自分らしい生活を送りながら、治療を受けることができるように、医師や薬剤師と協働して患者さんやご家族を支えていきたいと思っています。

当院の外来では、がんに関する相談を専門の看護師がお話を伺う「がん患者相談」を開設しております。お気軽にコンシェルジュにお声かけください。

